

フェニックス市との オンライン交流

毎年夏休みに、姫路市の中高生が海外姉妹都市を訪ね、ホストファミリー宅に滞在しながら異文化を体験し、現地の人々と交流を深めます。今年度は、新型コロナウイルスの影響で青少年交流が中止されたため落胆しましたが、姉妹都市のひとつであるアメリカ・フェニックス市からオンライン交流の提案があり、6月15日から約2か月間、実施しました。

Facebookのチャット機能を使った交流は、アカウントの管理人であるフェニックス市姉妹都市委員会が週に2回（月・木曜日）論題を投稿し、

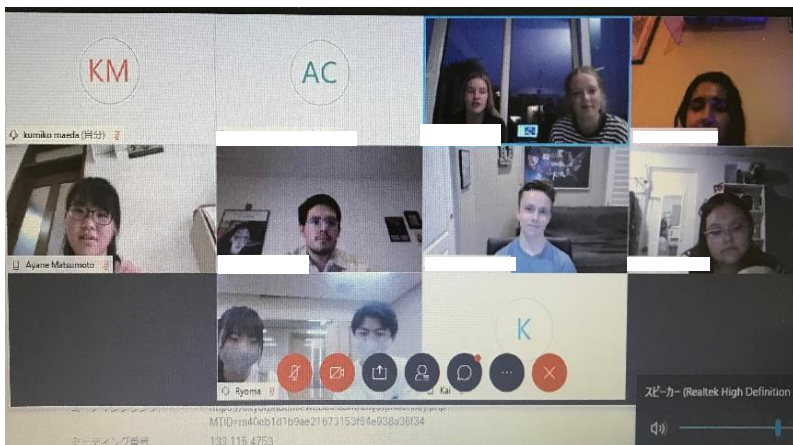
各自自由に意見を投稿するという形式で行われました。フェニックス市からは、今年の6月に来姫予定だった4名を含む17名、姫路市以外のフェニックス市の姉妹都市から11名、姫路市からは昨年と一昨年の派遣生5名の合計33名が参加しました。

論題は、“趣味”、“最近習った新しいこと”、“再開した学校は以前とどう違うか”など多岐にわたりました。オンライン交流の実施期間中に18回の論題が出され、自分の意見を投稿するだけでなく、誰かの意見にコメントしたり、その意見に返信したりしながら、交流しました。

また、期間中にビデオコールが3回設定され、姫路市生徒はそのうち2回に参加しました。論題が出され、それについて意見を述べていきました。他の国の生徒たちの会話のスピードについていくのは大変でしたが、2回目のビデオコールのときには慣れてきました。



今年選ばれていたフェニックス市派遣生たち



オンラインで受ける授業や休みの過ごし方など、全員が例年とは異なる時間を過ごしたので、皆興味深くお互いの話を聞きました。メディアでは得ることのできない生の現地の情報を得ることができました。参加した全ての生徒に有意義なオンライン交流であったと思います。